

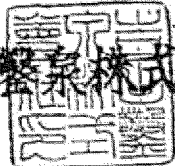
七尾・鹿島広域圏事務組合

ごみ処理施設建設工事に伴う地質調査

# 報 告 書

昭和 55 年 10 月

吉田繁泉株式会社



目 次

1. 調 査 概 要	1 P ~ 2 P
2. 附近見取図 及び 調査位置図	3 P ~ 4 P
3. 地 形・地 質 の 概 要	5 P ~ 6 P
4. 調 査 結 果	7 P ~ 11P
5. 支 持 力 の 検 討	12P ~ 16P

添 付 資 料

土 質 試 験 結 果 表

水 質 試 験 成 績 書

ボ ー リ ン グ 柱 状 図

推 定 断 面 図 集

調 査 写 真 集

土 質 標 本

## 1. 調査概要

### 1) 調査名

七尾・鹿島区域圏事務組合ごみ処理施設  
建設工事に伴う地質調査

### 2) 調査場所

石川県鹿島郡田舎浜町地内

### 3) 調査期間

着手 昭和55年9月12日

完了 昭和55年9月23日

### 4) 調査目的

七尾・鹿島区域圏事務組合ごみ処理施設建設工事にあたり建設予定地の地質及び土質工学的特性を把握し、設計施工時の基礎資料を得る。

### 5) 調査内容

イ) ボーリング及び土質試験

	深 さ(m)	N値試験(回)	土質試験(回)
No. 1	15.0	15	
No. 2	15.0	15	2
No. 3	15.0	15	
No. 4	15.0	15	

No. 5	15.0	15	2
No. 6	15.0	15	2
No. 7	15.0	15	2
No. 8	15.0	15	
合計	120.0	120	8

ロ) 水質分析 飲用試験 1検体

試験機関 財団法人 北陸血清研究所

ハ) 水量測定: 三角セキによる 1ヶ所

6) 使用機械

利根 TFP - 2H 型 試験錐機 1台

ベル 2型 試験錐機 2台

J I S 標準貫入試験器具 1式

7) 調査実施者

石川県金沢市南新保町二10番地

吉田 鑿泉 株式会社

TEL 0762-21-7013(代)





## 2. 地形・地質の概要

調査地は、国鉄七尾線田鶴浜駅の南西方向へ約3 Km、中能登丘陵地のほぼ中央部に位置する。

周辺の地形は赤蔵山(標高179 m)を最高峰とするが、大部分は標高100 m以下の丘陵性山地である。これら丘陵地は二宮川、三引川等の中小河川により、開析が進み、狭長は沖積平野が形成されている。二宮川左岸にある杉森、高田地内では、標高60 m前後で高位段丘が露頭している。

調査地は赤蔵山から東方へ張り出して開析された丘陵地の谷部にあたり標高30 m前後で水田や杉、桧、雑木等が繁茂している。

この附近の地質は第三紀中新世前期の穴水累層で安山岩質の火砕岩類が基盤となる。この火砕岩類は非常に起伏に富み、凹部を埋積した形で中新世中期の

赤浦砂岩層、七原泥岩砂岩互層及び中新世後期の和倉泥岩が分布している。上部は洪積世のレキ層～沖積世の粘土、崩積土、崖錐等によって覆われている。調査地周辺の穴水泉層は比較的上位でもあり、凝灰岩～角レキ凝灰岩等の中硬岩が卓越している。赤浦、七原、和倉層は弱固結～半固結状態の軟弱層である。



### 3. 調 査 結 果

- 1) ボーリングの結果は位置図の箇所において深度  
15m、1m毎の貫入試験を併用しながら8箇所  
、延120m実施した。その結果は付図一ボー  
リング柱状図及び推定断面図のとおりである。  
これを大別すれば、次表のようになる。

ボーリング結果総括一覧表

地 層		孔	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. I	No. II
沖 積 層				0	0			0			0	0
			—	∟	∟	—	—	∟	—	—	∟	∟
洪 積 層			0	1.4	0.4	0	0	0.4	0	0	3.4	2.5
			∟	∟	∟	∟	∟	∟	∟	∟	—	—
軟 岩	風 化		1.8	5.0	1.65	1.8	2.8	1.7	2.8	2.5		
			∟	—	∟	∟	∟	∟	∟	∟	∟	∟
新 鮮			4.6		6.7	5.7	3.9	4.45	6.0	10.4	9.6	5.4
			∟	—	∟	—	∟	∟	∟	∟	∟	∟
中 硬 岩			15.0		15.0		12.4	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
			—	∟	—	∟	∟	—	—	—	—	—
				15.0		15.0	15.0					
水 位 (m)			-0.7	-0.4	-1.6	-1.0	-0.6	-1.25	-1.1	-1.25	-2.5	自噴

※数字は深さ(m)を示す。

沖積層： 表土及び砂礫で割合ルーズである。

洪積層： 礫混り粘土、粘土混り礫

今回の調査地すべてにみられる。前回調査における砂礫、崩積土も、この層に相当すると考えても良い。粘性があり砂状を呈するは、高位段丘の特徴である。標準貫入試験結果では No. 7 の  $N = 5$  を除き、 $N = 10 \sim 50$  以上と非常にバラツキがある。N 値が低いのは粘性土部分が風化の進んだ礫を貫入したためである。また点石や玉石がサンプラーの先端に当たった場合は過大な N 値となる。

軟岩(風化部)：

大部分は砂岩の風化層であり、部分的に砂岩層にはさまれる泥岩がみられる。標準貫入試験結果では N 値  $6 \sim 50$  以上とバラツ

クが全体的には  $N < 20$  とみるのが妥当  
である。

軟岩(新鮮部) :

風化部と同様の地層であるが、全体的には  
暗青灰色を呈する。標準貫入試験結果では  
N値は16~50以上を示すが、 $N = 16$   
は新鮮部における風化部である。全体的に  
 $N > 30$ を示す。

中硬岩： 安山岩質凝灰岩、集塊岩、凝灰岩であり、  
穴水泉層の基盤と考えられる。 $N > 50$ を  
示す。

孔内水位は、深さ0.4~1.6mまでで見られたが、  
今回の調査では自噴する孔は見られなかった。調査  
地は狭長な谷地形であるので集水しやすく、地下水  
位面は非常に浅いと考えることが妥当であろう。

## 2) 土質試験

土質試験は No. 1、5、8 の 3 孔より各孔の N 値の低い箇所にて 2 試料宛の不攪乱試料を採取する予定であり、 $\phi 85 \text{ mm}$  で掘進し、再三採取を試みたが、転石や礫混り層も採取不能であり、粘土層も凝灰岩や泥岩が風化したものであるため固結して採取不能であった。故に乱した試料であるが No. 3、5、6、7 で各々 2 試料について、物理特性の試験(比重、含水、粒度、液性限界、塑性限界)を行なった。試験の結果は別紙表にとりまとめたとおりである。

試験の結果から、調査地の地層は自然含水比が高いが塑性指数  $I_p$  が高いので非常に安定している(沖積層ではこの様な状態はほとんど無い)。又、全体に細粒土が多く、これらを切土して盛

土材料にする場合は排水状況(盛土内)を良くしないと二次圧密を起す原因となる可能性があり、盛土材としては、使用はさけるべきであろう。

### 3) 水量測定及び水質試験

谷の裂にて湧き水をせき止めてパイプによって三角セキに流入させて流量を測定した。その結果は次のとおりである。

測定日 昭和55年10月2日 午後3時30分

ノッチ高	流 量	水 温
75.00	129.6.ℓ/分	15℃

天候 晴  
気温 19℃

なお水質試験の結果は水道法による飲用基準に比べ色度と一般細菌の2項目が不適合であったので飲用に供するには、滅菌装置と沈澱層またはろ過器が必要であるが、降水時、降雪時等による汚濁と天候、及び降雨量、凍結による水量、水温の変化を充分考

慮する必要がある。

#### 4. 支持力の検討

ここでは、建設基礎規準より次式を使用して、クイの長期許容支持力を計算してみる。

<打ち込みクイ>

$$R_a = \frac{1}{3} \left\{ 30 \cdot \bar{N} \cdot A_p + \left( \frac{\bar{N}_s}{5} \cdot L_s + \frac{q_u}{2} \cdot L_c \right) u \right\}$$

記号  $R_a$  : 長期鉛直許容支持力 (t/本)

$\bar{N}$  : 先端抵抗N値(クイ先端より下へ1D、上へ

4Dの間の実測N値の平均 Dはクイの直径)

なお、クイ先端を支持地盤中( $N > 50$ )に

1.0m以上、かつクイ径以上貫入する場

合は、先端N値を $\bar{N}$ とみなすことが出来る。

$A_p$  : クイ先端断面積 ( $m^2$ )

$\bar{N}_s$  : クイ周地盤中、砂質部分の実測N値の平均

$L_s$  : 同上、砂質部分にあるクイの長さ (m)

$\bar{q}_u$  : クイ周地盤中、粘性土部分の一軸圧縮強度の平均 ( $t/m^2$ )

なお、 $\bar{q}_u$  の実測値がない場合は  $\bar{q}_u = 1.25$  ( $t/m^2$ ) とする。

$L_c$  : 同上、粘性土部分にあるクイの長さ (m)

$u$  : クイの周長 (m)

<直接基礎>

$$q_a = \frac{1}{3} (\alpha \cdot C \cdot N_c + \beta \cdot r_1 \cdot B \cdot N_r + r_2 \cdot D_f \cdot N_q)$$

記号

$q_a$  : 長期許容支持力 ( $t/m^2$ )

$C$  : 基礎地盤の粘着力 ( $t/m^2$ )

$r_1$  : 基礎底面から下の土の単位体積重量 ( $t/m^3$ )

$r_2$  :  $D_f$  の範囲内の土の単位体積重量 ( $t/m^3$ )

$\alpha \cdot \beta$  : 基礎底面の形状係数

基礎の形状	連続	正方形	円形	長方形
$\alpha$	1.0	1.3	1.3	$1 + 0.3 \frac{B}{L}$
$\beta$	0.5	0.4	0.3	$0.5 - 0.1 \frac{B}{L}$

$N_c, N_r, N_q$  : 内部摩擦角から求まる支持力係数

$D_f$  : 地表面から基礎底面までの深さ

$B$  : 基礎底面の幅 ( m )

1) 管理棟

(A) クイ径 400 mm、長さ 5.0 m のクイ基礎と仮定

する。但し、クイ全長が短いので周面摩擦は無視する。

$$R_a = \frac{1}{3} \times 30 \times 45 \times 0.1256 = 56 \text{ t/本}$$

(B) 一辺の長さ 2.0 m の正方形独立基礎で  $D_f = 2.0$

とする場合。但し砂層であるから粘着力を無視する。基礎底面の  $N$  値 = 20 より砂の内部摩擦角は

$$\phi = \sqrt{11.7 N} + 21 = 36^\circ$$

となり、支持力係数は  $N_c = 42.2$ 、 $N_r = 30.5$ 、

$N_q = 33.6$  となる。又、土の重さを  $1.8 \text{ t/m}^3$  と

すれば、地下水位面が地表面まで上昇すると考え

れば  $\alpha = 0.8 \text{ t/m}^3$  となる。



故に

$$\begin{aligned} q_a &= \frac{1}{3} \times (1.3 \times 0.8 \times 2.0 \times 30.5 + 0.8 \times 2.0 \times 33.6) \\ &= \frac{1}{3} \times (63.44 + 53.76) = 39 \text{ t/m}^2 \end{aligned}$$

2) 煙突

GL-4.0mまで掘り下げて直接基礎とする。基礎形状を円形とし基礎底面直下の砂の摩擦角を $40^\circ$ として、求める。

$$\begin{aligned} q_u &= \frac{1}{3} \times (1.3 \times 0.8 \times 3.5 \times 114 + 0.8 \times 4.0 \times 83.2) \\ &= \frac{1}{3} \times (414.96 + 266.24) = 227 \text{ t/m}^2 \end{aligned}$$

3) 焼却棟

各々のボーリング地点によって N 値にバラッキがあるが、表面の沖積層を排除すれば、直接基礎で十分に対処出来得る。但し、根切り工事中に異状に柔らかい粘土や、ゆるい締りの砂層等の場合には少し締った所が出現するまで、土を排除する。この場合、

基礎の根入れ長さが深くなった場合に、基礎の下へ、クラックシャーランや、貧配合のコンクリート等で置換する事も必要となる。

当調査地の地層は洪積層あるいは第三紀層であり部分的に風化はしているが、沖積層に比して、先行圧密を受けている為に、比較的低い N 値を示す粘性土等では圧密隆伏応力は高く、沈下は若干あっても、不同沈下量として、あらわれる量は少ないと考えられる。

土質試験結果一覧表 (基礎地盤用)

報告用紙

調査名・調査地点 江東区江村の埋立地、埋立地改良工事(埋立地改良) 整理担当者

試料番号		5-1	5-2	5-1	5-2	6-1	6-2
深さ m		2.0	6.0	2.0	4.0	2.0	4.0
粒度特性	礫分(2000 $\mu$ m以上) %	1.0	0	59.5	0	0	1.0
	砂分(75-2000 $\mu$ m) %	22.0	10.5	18.5	0.5	3.0	2.5
	シルト分(5-75 $\mu$ m) %	15.0	59.5	8.0	4.5	54.0	61.5
	粘土分(5 $\mu$ m以下) %	2.0	10.0	1.0	40.0	41.0	10.0
	最大粒径 mm	4.75	2.00	25.4	0.105	0.105	4.75
	均等係数 $U_1$	47.9	12.1	415.4	15.4	9.1	-
	曲率係数 $U_2$	5.21	1.050	10601	0.962	0.765	-
コンプレッション特性	液性限界 $w_L$ %	48.7	120.4	68.1	118.4	16.2	116.4
	塑性限界 $w_p$ %	28.1	41.0	25.8	40.8	55.1	44.9
	塑性指数 $I_p$	10.6	79.4	42.3	77.6	101.1	81.4
分類	日本統一土質分類	SM	CH	G-C	CH	CH	CH
	土質名	{SF}	F	{G-F}	F	F	F
土粒子の比重 $G_s$		2.706	2.748	2.814	2.801	2.800	2.824
自然状態	含水比 $w$ %	26.1	122.4	22.0	126.0	125.0	109.0
	湿潤密度 $\rho_w$ g/cm <sup>3</sup>						
	間隙比 $e$						
	飽和度 $S_r$ %						
力学特性	一軸圧縮試験	一軸圧縮強さ $q_u$ kgf/cm <sup>2</sup>					
		試験の条件 <sup>(注1)</sup>					
	せん断試験	粘着力 $c$ kgf/cm <sup>2</sup>					
		せん断抵抗角 $\phi$ 度					
	三軸圧縮試験	試験の条件 <sup>(注2)</sup>					
		粘着力 $c$ kgf/cm <sup>2</sup>					
圧密試験	圧密降伏応力 $p_v$ kgf/cm <sup>2</sup>						
	圧縮指数 $C_c$						

備考 液性限界・塑性限界試験は、5-2, 5-2, 2-1, 2-2について自然含水の液性限界が低下している。これは、自然状態での試験の状態のためである。  
 5-1については、礫分を除去して、粘土工用の試料を試験した。L<sub>1</sub> = 68.1%と、自然含水比と比べて、この値は、礫分を除去したためである。  
 (注) 非圧密非排水試験: UU  
 圧密非排水試験: CU  
 圧密非排水試験 (同様水圧を測定した場合): CU  
 圧密排水試験: CD



土質試験結果一覧表 (基礎地盤用)

報告用紙

調査名・調査地点 橋本地区の地盤改良工事現場の地盤改良後の地盤調査

整理担当者

試料番号		Z1	Z2			
深さ m		4.0	4.0			
粒 度 特 性	礫分(2000 $\mu$ m以上) %	0	0			
	砂分(75~2000 $\mu$ m) %	18.0	15.0			
	シルト分(5~75 $\mu$ m) %	50.0	57.0			
	粘土分(5 $\mu$ m以下) %	32.0	28.0			
	最大粒径 mm	0.84	0.25			
	均等係数 $U_1$	-	-			
	曲率係数 $U_2$	-	-			
	コンシステンシー特性	液性限界 $w_L$ %	106.7	119.4		
塑性限界 $w_p$ %		41.9	42.4			
塑性指数 $I_p$		64.8	77.1			
分類	日本統一土質分類	CH	CH			
	土質名	F	F			
土粒子の比重 $G_s$		2.862	2.833			
自然 状態	含水比 $w$ %	118.5	128.5			
	湿潤密度 $\rho_w$ g/cm <sup>3</sup>					
	間隙比 $e$					
	飽和度 $S_r$ %					
力 学 特 性	一軸圧縮試験	一軸圧縮強さ $q_u$ kg/cm <sup>2</sup>				
		試験の条件 <sup>(注)</sup>				
	せん断試験	粘着力 $c$ kg/cm <sup>2</sup>				
		せん断抵抗角 $\phi$ 度				
三軸圧縮試験	試験の条件 <sup>(注)</sup>					
	粘着力 $c$ kg/cm <sup>2</sup>					
圧 密 性	圧密試験	圧密降伏応力 $P_v$ kg/cm <sup>2</sup>				
		圧縮指数 $C_c$				

備考

(注) 非圧密非排水試験: UU  
 圧密非排水試験: CV  
 圧密非排水試験 (間隙水圧を測定した場合): CU  
 圧密排水試験: CD

調査名・調査地点 土居島不純固形物組合水処理施設敷地内 試験年月日 64 年 10 月 11 日  
伊予地質調査

試験者 \_\_\_\_\_

試料番号 深さ	含 水 比 測 定			平均含水比
No. <u>6-1</u> 2.0 m ~ m	No. <u>91</u> W <sub>0</sub> <u>116.92</u> W <sub>1</sub> <u>96.22</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>19.48</u> W <sub>0</sub> <u>20.20</u> W <sub>1</sub> <u>22.29</u> w = <u>26.14</u> %	No. <u>92</u> W <sub>0</sub> <u>108.24</u> W <sub>1</sub> <u>89.41</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>12.94</u> W <sub>0</sub> <u>19.24</u> W <sub>1</sub> <u>26.67</u> w = <u>26.09</u> %	No. <u>151</u> W <sub>0</sub> <u>108.24</u> W <sub>1</sub> <u>89.21</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>21.78</u> W <sub>0</sub> <u>18.04</u> W <sub>1</sub> <u>18.89</u> w = <u>26.17</u> %	w = <u>26.1</u> %
No. <u>6-2</u> 4.0 m ~ m	No. <u>27</u> W <sub>0</sub> <u>27.82</u> W <sub>1</sub> <u>27.44</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>18.19</u> W <sub>0</sub> <u>5.48</u> W <sub>1</sub> <u>4.01</u> w = <u>127.15</u> %	No. <u>28</u> W <sub>0</sub> <u>24.44</u> W <sub>1</sub> <u>21.72</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>19.09</u> W <sub>0</sub> <u>27.2</u> W <sub>1</sub> <u>2.14</u> w = <u>127.10</u> %	No. <u>120</u> W <sub>0</sub> <u>28.44</u> W <sub>1</sub> <u>24.09</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>21.11</u> W <sub>0</sub> <u>4.11</u> W <sub>1</sub> <u>2.22</u> w = <u>127.64</u> %	w = <u>127.0</u> %
No. <u>6-1</u> 2.0 m ~ m	No. <u>81</u> W <sub>0</sub> <u>46.88</u> W <sub>1</sub> <u>29.24</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>16.99</u> W <sub>0</sub> <u>6.14</u> W <sub>1</sub> <u>22.24</u> w = <u>27.99</u> %	No. <u>80</u> W <sub>0</sub> <u>41.12</u> W <sub>1</sub> <u>36.71</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>20.49</u> W <sub>0</sub> <u>4.41</u> W <sub>1</sub> <u>6.38</u> w = <u>27.82</u> %	No. <u>154</u> W <sub>0</sub> <u>39.71</u> W <sub>1</sub> <u>26.07</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>19.80</u> W <sub>0</sub> <u>4.04</u> W <sub>1</sub> <u>16.07</u> w = <u>27.01</u> %	w = <u>27.0</u> %
No. <u>6-2</u> 4.0 m ~ m	No. <u>119</u> W <sub>0</sub> <u>26.92</u> W <sub>1</sub> <u>20.02</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>20.71</u> W <sub>0</sub> <u>2.04</u> W <sub>1</sub> <u>1.67</u> w = <u>126.92</u> %	No. <u>118</u> W <sub>0</sub> <u>30.66</u> W <sub>1</sub> <u>26.92</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>19.99</u> W <sub>0</sub> <u>6.22</u> W <sub>1</sub> <u>4.84</u> w = <u>126.11</u> %	No. <u>180</u> W <sub>0</sub> <u>27.09</u> W <sub>1</sub> <u>21.27</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>16.89</u> W <sub>0</sub> <u>6.72</u> W <sub>1</sub> <u>4.54</u> w = <u>126.99</u> %	w = <u>126.0</u> %
No. <u>6-1</u> 2.0 m ~ m	No. <u>100</u> W <sub>0</sub> <u>26.27</u> W <sub>1</sub> <u>21.71</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>18.06</u> W <sub>0</sub> <u>4.66</u> W <sub>1</sub> <u>4.64</u> w = <u>124.92</u> %	No. <u>109</u> W <sub>0</sub> <u>28.81</u> W <sub>1</sub> <u>20.27</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>19.74</u> W <sub>0</sub> <u>5.04</u> W <sub>1</sub> <u>4.02</u> w = <u>126.66</u> %	No. <u>200</u> W <sub>0</sub> <u>26.61</u> W <sub>1</sub> <u>21.09</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>16.01</u> W <sub>0</sub> <u>16.28</u> W <sub>1</sub> <u>9.02</u> w = <u>126.06</u> %	w = <u>125.0</u> %
No. <u>6-2</u> 4.0 m ~ m	No. <u>122</u> W <sub>0</sub> <u>30.24</u> W <sub>1</sub> <u>26.22</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>20.81</u> W <sub>0</sub> <u>4.80</u> W <sub>1</sub> <u>4.62</u> w = <u>128.86</u> %	No. <u>142</u> W <sub>0</sub> <u>28.00</u> W <sub>1</sub> <u>22.46</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>19.11</u> W <sub>0</sub> <u>4.64</u> W <sub>1</sub> <u>4.24</u> w = <u>129.18</u> %	No. <u>110</u> W <sub>0</sub> <u>31.82</u> W <sub>1</sub> <u>24.68</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>18.04</u> W <sub>0</sub> <u>7.24</u> W <sub>1</sub> <u>4.64</u> w = <u>129.02</u> %	w = <u>129.0</u> %
No. <u>7-1</u> 3.0 m ~ m	No. <u>107</u> W <sub>0</sub> <u>22.89</u> W <sub>1</sub> <u>22.41</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>19.54</u> W <sub>0</sub> <u>4.68</u> W <sub>1</sub> <u>3.87</u> w = <u>118.25</u> %	No. <u>108</u> W <sub>0</sub> <u>24.22</u> W <sub>1</sub> <u>24.11</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>12.44</u> W <sub>0</sub> <u>7.91</u> W <sub>1</sub> <u>6.67</u> w = <u>118.59</u> %	No. <u>101</u> W <sub>0</sub> <u>22.09</u> W <sub>1</sub> <u>21.76</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>17.88</u> W <sub>0</sub> <u>6.52</u> W <sub>1</sub> <u>4.07</u> w = <u>118.42</u> %	w = <u>118.5</u> %
No. <u>7-2</u> 4.0 m ~ m	No. <u>98</u> W <sub>0</sub> <u>20.86</u> W <sub>1</sub> <u>21.06</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>21.00</u> W <sub>0</sub> <u>5.69</u> W <sub>1</sub> <u>4.26</u> w = <u>128.21</u> %	No. <u>88</u> W <sub>0</sub> <u>21.12</u> W <sub>1</sub> <u>24.06</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>18.02</u> W <sub>0</sub> <u>6.22</u> W <sub>1</sub> <u>6.24</u> w = <u>129.20</u> %	No. <u>99</u> W <sub>0</sub> <u>21.48</u> W <sub>1</sub> <u>24.01</u> W <sub>2</sub> _____ W <sub>c</sub> <u>18.18</u> W <sub>0</sub> <u>7.47</u> W <sub>1</sub> <u>5.82</u> w = <u>128.12</u> %	w = <u>128.5</u> %

$$\begin{aligned}
 \text{含水比 } w &= \frac{W_0 - W_1}{W_1 - W_c} \times 100 \quad \% \\
 &= \frac{W_0}{W_1} \times 100 \quad \%
 \end{aligned}$$

W<sub>0</sub>: 容器の重量 + 湿潤土, g    W<sub>1</sub>: 試料中の水の重量, g  
 W<sub>2</sub>: 容器の重量 + 乾燥土, g    W<sub>c</sub>: 乾燥土の重量, g  
 W<sub>c</sub>: 容器の重量, g

調査名・調査地点 東京都立総合研究センター 環境施設建設工事 試験年月日 55年 10月 日  
沖ノ島掘削 試験者 \_\_\_\_\_

試料番号・深さ	Na W-1 (2.0m - m)			Na W-2 (6.0m - m)		
測定番号	1	2	3	1	2	3
比重びんの番号	W410	W412	W410	W413	W411	W411
(乾燥土(又は湿潤土)+蒸留水+比重びん)の質量 $m_1$ g	147.537	162.020	157.801	153.204	155.854	161.081
$m_1$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C	20.5	-	-	21	-	-
比重びんに入れた 炉乾燥土質量 $m_2$ g	容器番号	24	22	20	3	2
	(乾燥土+容器)の質量 g	142.541	156.840	148.520	143.109	147.457
	容器質量 g	140.652	126.149	148.172	126.071	139.197
$m_2$ g	11.889	10.727	10.348	7.038	8.265	8.201
$T$ °Cにおける(蒸留水+比重びん)の換算質量 <sup>(注1)</sup> $m_3$ g	140.030	156.259	151.271	148.836	150.580	155.859
$m_2 + (m_3 - m_1)$ g	4.582	5.966	5.818	2.569	5.010	2.986
$T$ °Cにおける土粒子の比重 $G(TC/TC) = \frac{m_2}{m_2 + (m_3 - m_1)}$	2.224	2.205	2.210	2.240	2.246	2.247
補正係数 <sup>(注2)</sup> $K$	0.9990	-	-	0.9989	-	-
15°Cにおける土粒子の比重 $G(TC/15C) = K \cdot G(TC/TC)$	2.210	2.202	2.207	2.227	2.243	2.244
平均値	比重 (TC/15C) = 2.206			比重 (TC/15C) = 2.248		
$T$ °Cにおける水の比重 <sup>(注3)</sup> $G_T$						
4°Cにおける土粒子の比重 $G(TC/4C) = G_T \cdot G(TC/TC)$						
平均値	比重 (TC/4C) =			比重 (TC/4C) =		
備考						

試料番号・深さ	Na F-1 (2.0m - m)			Na F-2 (6.0m - m)		
測定番号	1	2	3	1	2	3
比重びんの番号	W415	W416	W415	W417	W418	W411
(乾燥土(又は湿潤土)+蒸留水+比重びん)の質量 $m_1$ g	152.592	155.891	155.516	153.455	156.201	160.717
$m_1$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C	20.5	-	-	20.5	-	-
比重びんに入れた 炉乾燥土質量 $m_2$ g	容器番号	28	48	107	26	61
	(乾燥土+容器)の質量 g	144.200	155.481	151.409	142.145	145.963
	容器質量 g	142.714	126.248	122.963	122.408	135.205
$m_2$ g	2486	9.238	8.446	9.737	10.758	10.001
$T$ °Cにおける(蒸留水+比重びん)の換算質量 <sup>(注1)</sup> $m_3$ g	147.762	149.976	149.851	147.192	149.784	154.278
$m_2 + (m_3 - m_1)$ g	2.646	5.280	5.911	5.474	5.841	5.562
$T$ °Cにおける土粒子の比重 $G(TC/TC) = \frac{m_2}{m_2 + (m_3 - m_1)}$	2.819	2.814	2.815	2.803	2.801	2.808
補正係数 <sup>(注2)</sup> $K$	0.9990	-	-	0.9990	-	-
15°Cにおける土粒子の比重 $G(TC/15C) = K \cdot G(TC/TC)$	2.816	2.811	2.812	2.800	2.798	2.805
平均値	比重 (TC/15C) = 2.813			比重 (TC/15C) = 2.801		
$T$ °Cにおける水の比重 <sup>(注3)</sup> $G_T$						
4°Cにおける土粒子の比重 $G(TC/4C) = G_T \cdot G(TC/TC)$						
平均値	比重 (TC/4C) =			比重 (TC/4C) =		
備考						

注1) 補え付けの比重びんの検定表より求める。注2) JISの表より求める。

調査名・調査地点 浅草区本町四丁目第一号地処理施設建設工事 試験年月日 55年10月 日  
洋行地質調査 試験者 \_\_\_\_\_

試料番号・深さ	No 6-1 (2.0 m - m)			No 6-2 (2.0 m - m)			
測定番号	1	2	3	1	2	3	
比重びんの番号	351	352	354	349	350	326	
(乾燥土(又は液固土)+蒸留水+比重びん)の質量 $m_1$ g	161.178	156.962	160.680	151.352	155.541	163.799	
$m_1$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C	21	-	-	20.5	21	21	
比重びんに入れた 乾燥土質量 $m_2$ g	容器番号	90	57	60	100	44	39
	(乾燥土+容器)の質量 g	118.921	156.021	127.342	140.202	160.822	148.535
	容器質量 g	128.226	146.545	127.064	151.215	151.582	129.285
$m_2$ g	10.744	9.486	10.268	8.468	9.246	9.240	
$T$ における(蒸留水+比重びん)の換算質量 $m_3$ g	154.582	150.861	154.025	145.882	152.568	152.825	
$m_3 + (m_2 - m_1)$ g	3.654	3.385	3.650	2.999	3.222	3.266	
$T$ における土粒子の比重 $G_s(TC/TC) = \frac{m_2}{m_2 + (m_3 - m_1)}$	2.804	2.802	2.804	2.824	2.825	2.829	
補正係数 $K$	0.9989	-	-	0.9990	0.9989	0.9989	
15°Cにおける土粒子の比重 $G_s(TC/15C) = K \cdot G_s(TC/TC)$	2.801	2.799	2.800	2.821	2.822	2.826	
平均値	比重 (TC/15C) = 2.800			比重 (TC/15C) = 2.823			
$T$ における水の比重 $G_T$							
4°Cにおける土粒子の比重 $G_s(TC/4C) = G_T \cdot G_s(TC/TC)$							
平均値	比重 (TC/4C) =			比重 (TC/4C) =			
備考							

試料番号・深さ	No 7-1 (2.0 m - m)			No 7-2 (2.0 m - m)			
測定番号	1	2	3	1	2	3	
比重びんの番号	356	357	359	355	354	357	
(乾燥土(又は液固土)+蒸留水+比重びん)の質量 $m_1$ g	154.455	156.215	156.202	154.149	152.004	156.430	
$m_1$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C	21	-	-	21	-	-	
比重びんに入れた 乾燥土質量 $m_2$ g	容器番号	54	23	18	85	21	52
	(乾燥土+容器)の質量 g	116.963	149.042	115.202	149.495	144.481	151.454
	容器質量 g	128.625	147.042	149.105	121.852	122.059	144.426
$m_2$ g	6.378	2.000	6.598	5.638	2.248	2.028	
$T$ における(蒸留水+比重びん)の換算質量 $m_3$ g	148.302	152.155	148.912	150.502	152.516	150.885	
$m_3 + (m_2 - m_1)$ g	2.225	2.440	2.307	1.991	2.610	2.483	
$T$ における土粒子の比重 $G_s(TC/TC) = \frac{m_2}{m_2 + (m_3 - m_1)}$	2.867	2.869	2.860	2.852	2.846	2.850	
補正係数 $K$	0.9989	-	-	0.9989	-	-	
15°Cにおける土粒子の比重 $G_s(TC/15C) = K \cdot G_s(TC/TC)$	2.864	2.866	2.857	2.829	2.844	2.827	
平均値	比重 (TC/15C) = 2.862			比重 (TC/15C) = 2.834			
$T$ における水の比重 $G_T$							
4°Cにおける土粒子の比重 $G_s(TC/4C) = G_T \cdot G_s(TC/TC)$							
平均値	比重 (TC/4C) =			比重 (TC/4C) =			
備考							

注1) 備え付けの比重びんの検定表より求める。注2) JISの表より求める。



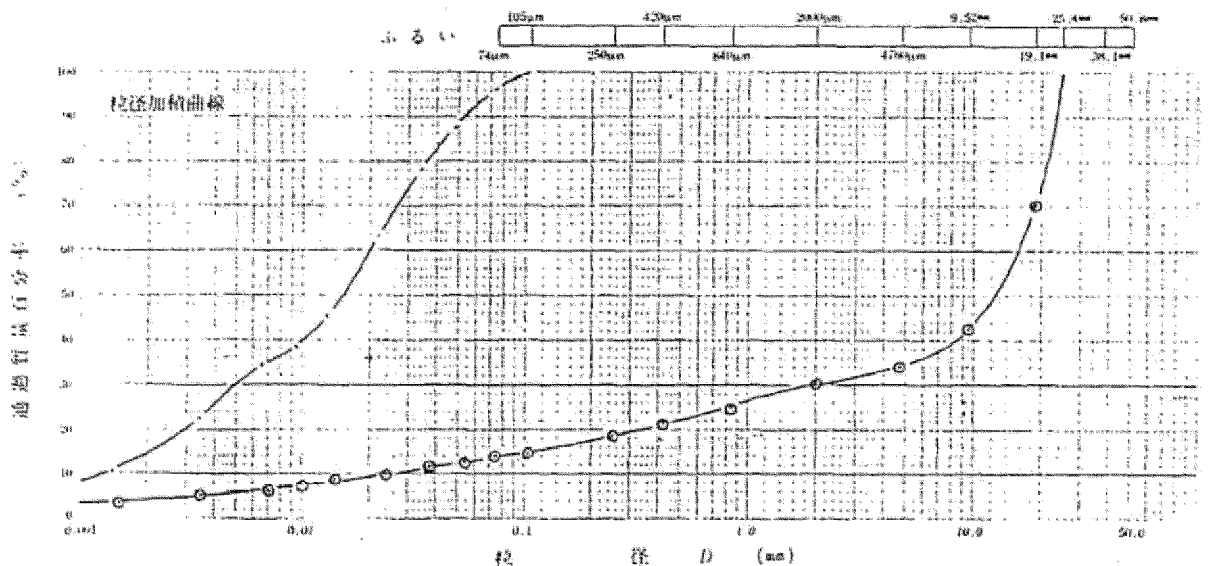
調査名・調査地点 元来土質試験室の文庫用土の粒度試験

試験年月日 55年 10月 11日

試験者

試料番号 深さ	No. 5 (2.0mm - m)		No. 5 (0.075mm - m)	
	粒径 mm	質量百分率 %	粒径 mm	質量百分率 %
土 の 分 け	50.8		50.8	
	38.1		38.1	
	25.4	100	25.4	
	19.1	20.0	19.1	
	9.52	42.0	9.52	
	4.76	58.0	4.76	
	2.00	82.6	2.00	
	0.84	85.5	0.84	
	0.42	87.4	0.42	
	0.25	88.6	0.25	
比 重 係 数	0.105	89.6	0.105	100
	0.074	94.0	0.074	86.4
	0.054	92.8	0.054	87.7
	0.038	91.7	0.038	88.2
	0.028	89.9	0.028	89.4
	0.020	88.6	0.020	90.5
	0.015	87.6	0.015	91.1
	0.011	86.2	0.011	91.4
	0.008	84.1	0.008	92.0
	0.006	82.7	0.006	92.9

試料番号 深さ	No. 5 (2.0mm - m)		No. 5 (0.075mm - m)	
	粒径 mm	質量百分率 %	粒径 mm	質量百分率 %
4.76mm以上の粒子	86.0		0	
細礫分(4.76-2mm)%	4.5	89.5	0	0
粗砂分(2-0.42mm)%	9.0		0	
細砂分(0.42-0.074mm)%	2.5	86.5	4.5	8.5
シルト分(0.074-0.005mm)%	8.0		86.5	
粘土分 <sup>F</sup> (0.005mm以下)%	6.0		40.0	
コロイド分(0.001-0.002μm)%	3.5		8.0	
200μm以下の通過質量百分率 %	40.5		100	
430μm以下の通過質量百分率 %	21.5		100	
74μm以下の通過質量百分率 %	14.0		96.5	
最大粒径 mm	25.4		0.105	
60% 粒径 mm	16		0.020	
30% 粒径 mm	2.1		0.0050	
10% 粒径 mm	0.26		0.0015	
均等係数 U <sub>1</sub>	615.4		15.4	
曲率係数 U <sub>2</sub>	10.601		0.962	
土粒子の比重 G <sub>s</sub>	2.81		2.801	
使用した分散剤	ヘキサメチリン酸 ナトリウム		ヘキサメチリン酸 ナトリウム	



0.001	0.005	0.074	0.42	2.0	4.76	75
粘土	シルト	粗砂	粗砂	細礫	礫	岩石質材料

備考

注) コロイド分を含む

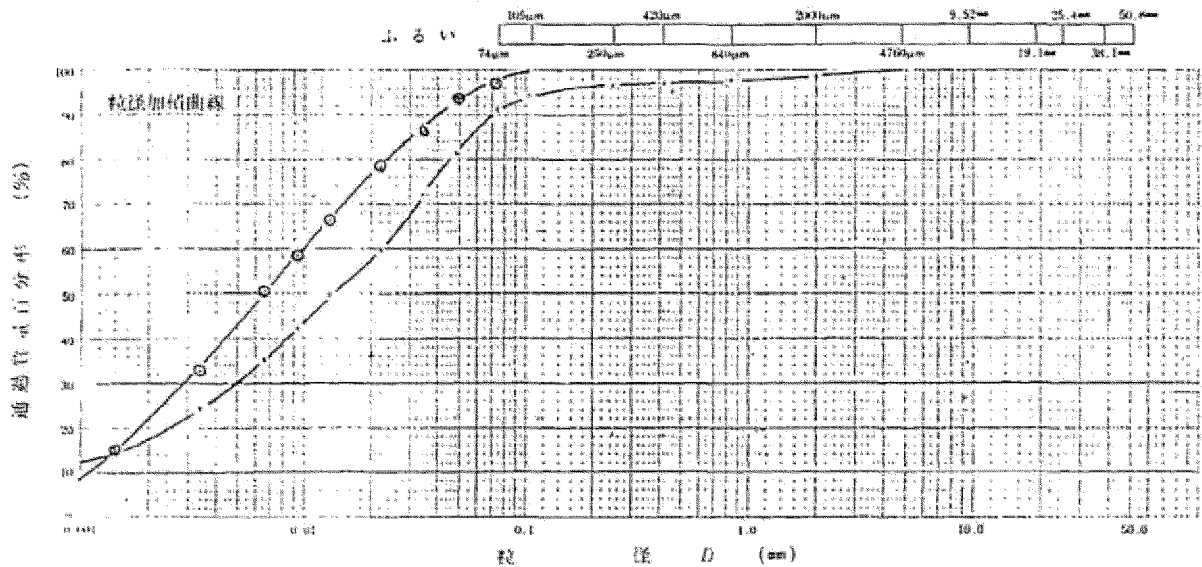
調査名・調査地点 （ここに調査名・調査地点を記入する）

試験年月日  年 月 日

試験者

試料番号 深さ	No. $\phi$ (2.0mm - m)		No. $\phi$ (4.75mm - m)	
	粒径 mm	質量百分率 %	粒径 mm	質量百分率 %
ふるい分け	50.8		50.8	
	38.1		38.1	
	25.4		25.4	
	19.1		19.1	
	9.52		9.52	
	4.76		4.76	100
	2.00		2.00	99.9
	0.84		0.84	99.0
	0.42		0.42	97.1
	0.25		0.25	96.7
比重浮き	0.105	100	0.105	94.5
	0.074	97.1	0.074	91.7
	0.048	92.6	0.048	81.7
	0.025	86.6	0.025	72.6
	0.015	78.7	0.015	59.9
	0.008	66.7	0.008	49.4
	0.005	58.7	0.005	42.5
	0.003	50.7	0.003	35.5
	0.002	42.6	0.002	28.7
	0.001	35.5	0.001	24.6

試料番号 深さ	No. $\phi$ (2.0mm - m)		No. $\phi$ (4.75mm - m)	
	4.76mm以上の粒子 %	0	0	0
粗砂分(4.76-2mm) %	0	0	1.0	1.0
粗砂分(2-0.42mm) %	0	0	2.0	2.0
細砂分(0.42-0.074mm) %	9.0	9.0	5.5	7.5
シルト分(0.074-0.005mm) %	81.0	81.0	81.5	81.5
粘土分(0.005mm以下) %	9.0	9.0	10.0	10.0
コロイド分(0.001mm以下) %	0.0	0.0	1.0	1.0
2000 $\mu$ m以上の通過質量百分率 %	100	100	99.0	99.0
43 $\mu$ m以上の通過質量百分率 %	100	100	97.0	97.0
74 $\mu$ m以上の通過質量百分率 %	97.0	97.0	91.5	91.5
最大粒径 mm	0.105	0.105	4.76	4.76
60% 粒径 mm	0.010	0.010	0.027	0.027
30% 粒径 mm	0.029	0.029	0.049	0.049
10% 粒径 mm	0.0011	0.0011	-	-
均等係数 $U_c$	9.1	9.1	-	-
曲率係数 $U_z$	0.765	0.765	-	-
土粒子の比重 $G_s$	2.800	2.800	2.820	2.820
使用した分散剤	ヘキサメタリン酸 ナトリウム	ヘキサメタリン酸 ナトリウム	ヘキサメタリン酸 ナトリウム	ヘキサメタリン酸 ナトリウム



0.075	0.15	0.3	0.6	1.2	2.5	5.0	10	20	40	75
-------	------	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----

備考

注) コロイド分を含む

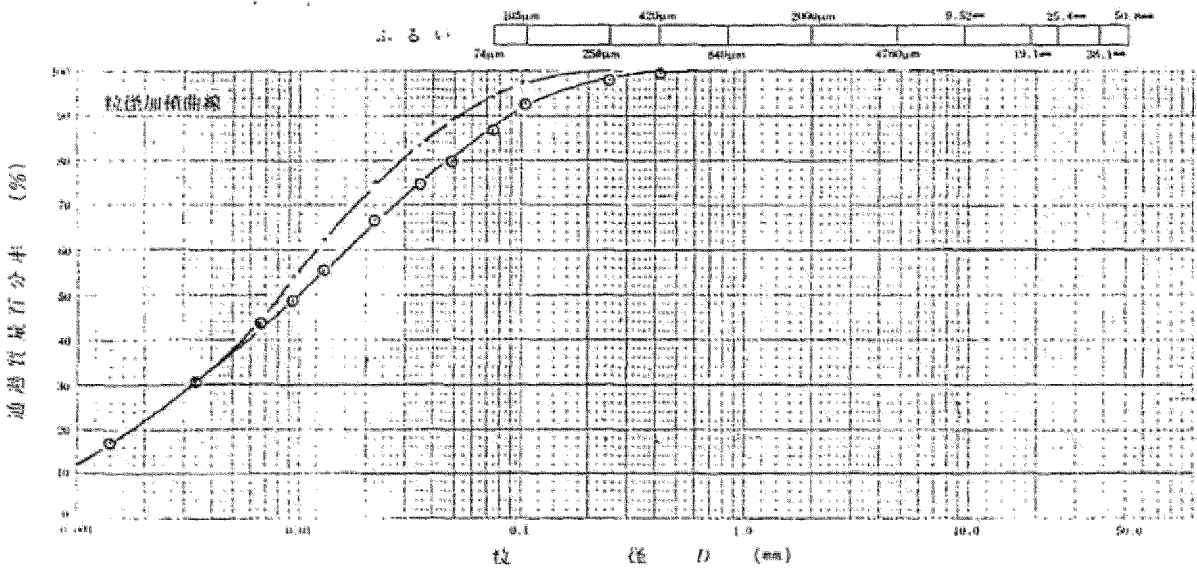
調査名・調査地点 （株）大塚建設 大塚建設事務所 地質調査

試験年月日 55年 10月 日

試験者 \_\_\_\_\_

試料番号 深さ	No. > ( $\geq 0.075$ mm)		No. > ( $\geq 0.075$ mm)	
	粒径 mm	質量百分率 %	粒径 mm	質量百分率 %
ふ ら い 分 け	50.8		50.8	
	38.1		38.1	
	25.4		25.4	
	19.1		19.1	
	9.52		9.52	
	4.76		4.76	
	2.00		2.00	
	0.84	100	0.84	
	0.42	99.6	0.42	
	0.25	98.4	0.25	100
比 重 浮 ひ す い	0.105	92.7	0.105	92.8
	0.074	86.8	0.074	94.8
	0.048	78.8	0.048	89.3
	0.030	75.6	0.030	83.7
	0.020	66.3	0.020	75.9
	0.015	55.7	0.015	62.6
	0.010	46.8	0.010	54.5
	0.0075	42.7	0.0075	41.9
	0.005	30.6	0.005	30.9
	0.0025	12.1	0.0025	12.1

試料番号 深さ	No. > ( $\geq 0.075$ mm)		No. > ( $\geq 0.075$ mm)	
	粒径 mm	質量百分率 %	粒径 mm	質量百分率 %
4.76mm以上の粒子	0		0	
細砂分 (4.76 - 2mm)%	0	0	0	0
粗砂分 (2 - 0.42mm)%	0.5		0	
細砂分 (0.42 - 0.075mm)%	12.5	11.0	5.0	5.0
シルト分 (0.075 - 0.005mm)%	87.0		92.0	
粘土分 (0.005mm以下)%	12.0		8.0	
コロイド分 (0.001mm以下)%	12.0		12.0	
2000 $\mu$ m以上の通過質量百分率 %	100		100	
420 $\mu$ m以上の通過質量百分率 %	99.5		100	
75 $\mu$ m以上の通過質量百分率 %	87.0		95.0	
最大粒径 mm	0.84		0.25	
60% 粒径 mm	0.016		0.017	
30% 粒径 mm	0.0048		0.0048	
10% 粒径 mm	-		-	
均等係数 $U_c$	-		-	
曲率係数 $U_c'$	-		-	
土粒子の比重 $G_s$	2.862		2.800	
使用した分散剤	ヘキサメチリン酸 ナトリウム		ヘキサメチリン酸 ナトリウム	



精 土	シルト	細 砂	粗 砂	細 砂	粗 砂	細 砂	粗 砂	細 砂	粗 砂
0.001	0.005	0.075	0.42	2.0	4.76	75	150	250	425

備考

注) コロイド分を含む

調査名・調査地点 尾島島域圏事務所組合の処理施設建設工事に伴う地質調査

試験年月日 55年 10月 11日

試験者

試料番号・深さ Na $\psi-1$ (20 m - m)			液性限界試験			塑性限界試験		
Na	落下回数	含水比 %	Na	含水比 %				
1	24	48.8	1	28.1				
2	20	49.1	2	27.9				
3	17	49.6	3	28.4				
4	14	49.9						
5	10	49.6						
6	6	49.4						
液性限界 $w_L$ %	塑性限界 $w_p$ %	塑性指数 $I_p$						
48.7	28.1	19.6						

試料番号・深さ Na $\psi-2$ (30 m - m)			液性限界試験			塑性限界試験		
Na	落下回数	含水比 %	Na	含水比 %				
1	41	116.7	1	41.7				
2	44	118.4	2	40.8				
3	28	120.1	3	40.6				
4	21	121.6						
5	16	122.6						
6	11	123.2						
液性限界 $w_L$ %	塑性限界 $w_p$ %	塑性指数 $I_p$						
120.4	41.0	79.4						

試料番号・深さ Na $\psi-1$ (20 m - m)			液性限界試験			塑性限界試験		
Na	落下回数	含水比 %	Na	含水比 %				
1	45	65.0	1	25.1				
2	37	66.0	2	26.6				
3	30	67.0	3	25.7				
4	22	68.9						
5	14	72.0						
6	8	75.2						
液性限界 $w_L$ %	塑性限界 $w_p$ %	塑性指数 $I_p$						
68.1	25.8	42.3						

試料番号・深さ Na $\psi-2$ (40 m - m)			液性限界試験			塑性限界試験		
Na	落下回数	含水比 %	Na	含水比 %				
1	49	119.8	1	40.8				
2	36	115.6	2	41.1				
3	29	118.9	3	40.5				
4	15	122.1						
5	11	124.4						
6	10	125.9						
液性限界 $w_L$ %	塑性限界 $w_p$ %	塑性指数 $I_p$						
119.3	40.8	78.5						

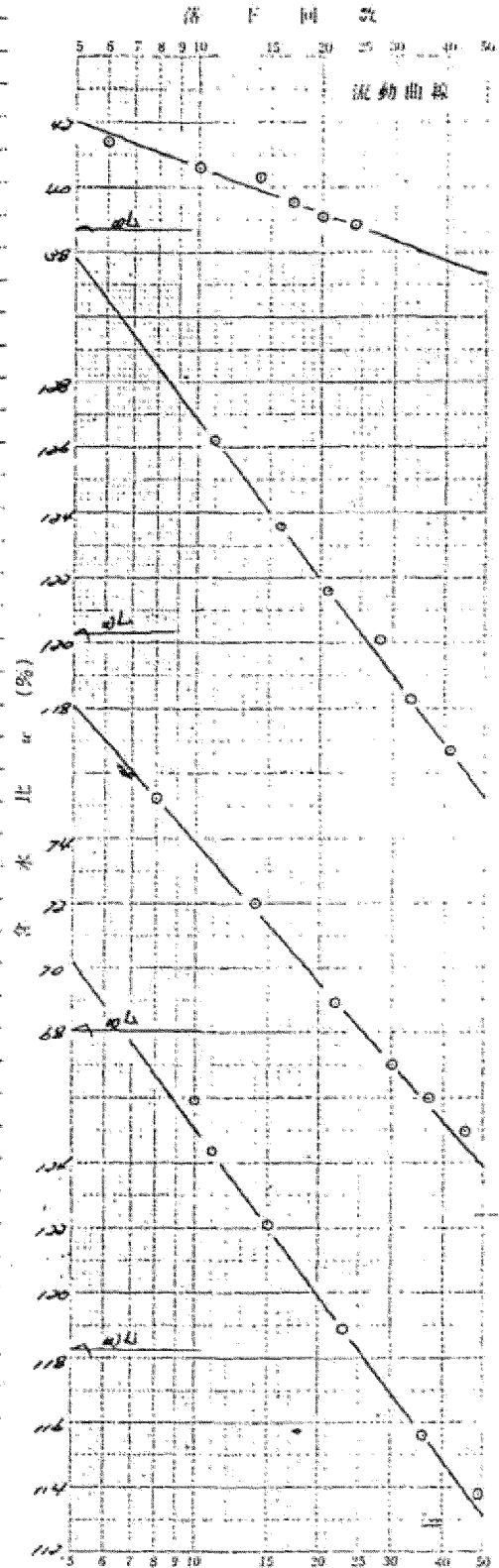
備考 試料の調製方法などを記入する。

$\psi-1, \psi-1$

乾燥後 120°F 7 M イ 通過試料

$\psi-2, \psi-2$

自然状態のまま調り台の上



調査名・調査地点 堤防築成現場採取土の液性・塑性限界試験  
伴川河川調査

試験年月日 55 年 10 月 11 日

試験者

試料番号・深さ		No <u>6-1</u> ( <u>20</u> m - <u>  </u> m)		
液性限界試験		塑性限界試験		
No	落下回数	含水比 %	No	含水比 %
1	<u>18</u>	<u>132.1</u>	1	<u>64.7</u>
2	<u>29</u>	<u>132.8</u>	2	<u>64.8</u>
3	<u>30</u>	<u>135.5</u>	3	<u>64.9</u>
4	<u>24</u>	<u>136.5</u>		
5	<u>14</u>	<u>144.4</u>		
6	<u>8</u>	<u>144.5</u>		
液性限界 $w_L$ %	塑性限界 $w_p$ %	塑性指数 $I_p$		
<u>136.2</u>	<u>64.1</u>	<u>101.1</u>		

試料番号・深さ		No <u>6-2</u> ( <u>20</u> m - <u>  </u> m)		
液性限界試験		塑性限界試験		
No	落下回数	含水比 %	No	含水比 %
1	<u>16</u>	<u>112.4</u>	1	<u>32.9</u>
2	<u>27</u>	<u>113.2</u>	2	<u>35.1</u>
3	<u>27</u>	<u>115.8</u>	3	<u>32.6</u>
4	<u>20</u>	<u>118.6</u>		
5	<u>14</u>	<u>121.8</u>		
6	<u>9</u>	<u>124.6</u>		
液性限界 $w_L$ %	塑性限界 $w_p$ %	塑性指数 $I_p$		
<u>116.0</u>	<u>32.9</u>	<u>81.6</u>		

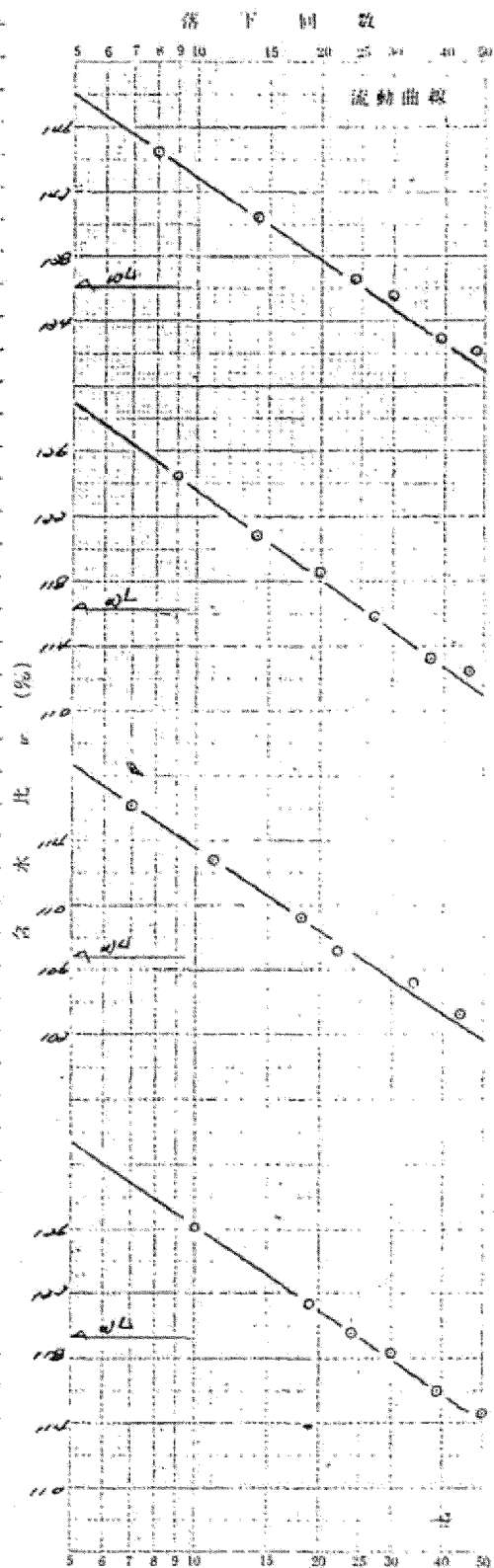
試料番号・深さ		No <u>7-1</u> ( <u>20</u> m - <u>  </u> m)		
液性限界試験		塑性限界試験		
No	落下回数	含水比 %	No	含水比 %
1	<u>24</u>	<u>102.2</u>	1	<u>41.7</u>
2	<u>34</u>	<u>105.2</u>	2	<u>42.0</u>
3	<u>28</u>	<u>107.2</u>	3	<u>42.1</u>
4	<u>18</u>	<u>109.0</u>		
5	<u>11</u>	<u>112.8</u>		
6	<u>7</u>	<u>116.9</u>		
液性限界 $w_L$ %	塑性限界 $w_p$ %	塑性指数 $I_p$		
<u>106.7</u>	<u>41.9</u>	<u>64.8</u>		

試料番号・深さ		No <u>7-2</u> ( <u>20</u> m - <u>  </u> m)		
液性限界試験		塑性限界試験		
No	落下回数	含水比 %	No	含水比 %
1	<u>50</u>	<u>114.6</u>	1	<u>40.9</u>
2	<u>39</u>	<u>116.0</u>	2	<u>42.0</u>
3	<u>30</u>	<u>118.4</u>	3	<u>42.5</u>
4	<u>24</u>	<u>119.6</u>		
5	<u>19</u>	<u>121.0</u>		
6	<u>14</u>	<u>122.2</u>		
液性限界 $w_L$ %	塑性限界 $w_p$ %	塑性指数 $I_p$		
<u>119.4</u>	<u>42.0</u>	<u>77.1</u>		

備考 試料の調製方法を記入する。

今試料

自製軟固土を配合した



(別紙)

### 水質試験(検査)結果書

(依頼者送付用)

No. 3358

依頼者住所・氏名	住所 金沢市南新保2-10	氏名 吉田 鑿泉 KK	
試料の種類	(上水道・簡易水道・専用水道)、(原水・浄水)、(その他(井水))		
採取地点	鹿島郡田鶴浜地内七尾産動区域事務組合 処理施設建設工事 井水		
採取年月日	昭和 55 年 9 月 17 日	時刻 天候 前日 当日	
採取者	吉田 鑿泉 KK 社員		
〇気 温	℃	ヒ 素	mg/l (0.05 mg/l 以下)
〇水 温	℃	フ ッ 素	mg/l (0.8 mg/l 以下)
〇亜硝酸性窒素 の検出限界	0.3 mg/l (10 mg/l 以下)	〇アミン・アミン の検出限界	1.65 mg/l (300 mg/l 以下)
〇塩素イオン	138 mg/l (200 mg/l 以下)	〇蒸発残留物	4.66 mg/l (500 mg/l 以下)
〇有機性窒素 の検出限界	1.6 mg/l (10 mg/l 以下)	〇フェノール類	mg/l (0.005 mg/l 以下)
〇一般細菌	574 /ml (100/ml 以下)	〇陰イオン 界面活性剤	mg/l (0.5 mg/l 以下)
〇大腸菌群	0 (検出されないこと)	〇pH 値	6.5 (5.8以上8.6以下)
シアンイオン	mg/l (検出されないこと)	〇臭 気	異常なし (異常でないこと)
水 銀	mg/l (検出されないこと)	〇味	異常なし (異常でないこと)
有機リン	mg/l (検出されないこと)	〇色 度	6 度 (5 度 以 下)
銅	mg/l (1.0 mg/l 以下)	〇濁 度	2 度 (2 度 以 下)
〇鉄	0.12 mg/l (0.3 mg/l 以下)		
マンガン	mg/l (0.3 mg/l 以下)	〇アンモニア態窒素	0.00 mg/l
亜 鉛	mg/l (1.0 mg/l 以下)	〇セレン	mg/l (0.01 mg/l 以下)
鉛	mg/l (0.1 mg/l 以下)	〇残留塩素	ppm (0.1 ppm 以下)
六価クロム	mg/l (0.05 mg/l 以下)		
カドミウム	mg/l (0.01 mg/l 以下)	⑤・〇印は簡易試験項目 ・残留塩素は浄水のみ記入	

(判定及び特記事項) ⑤ 原水については判定不要

上記試験項目については一般細菌色度において  
水道法の水質基準不適合

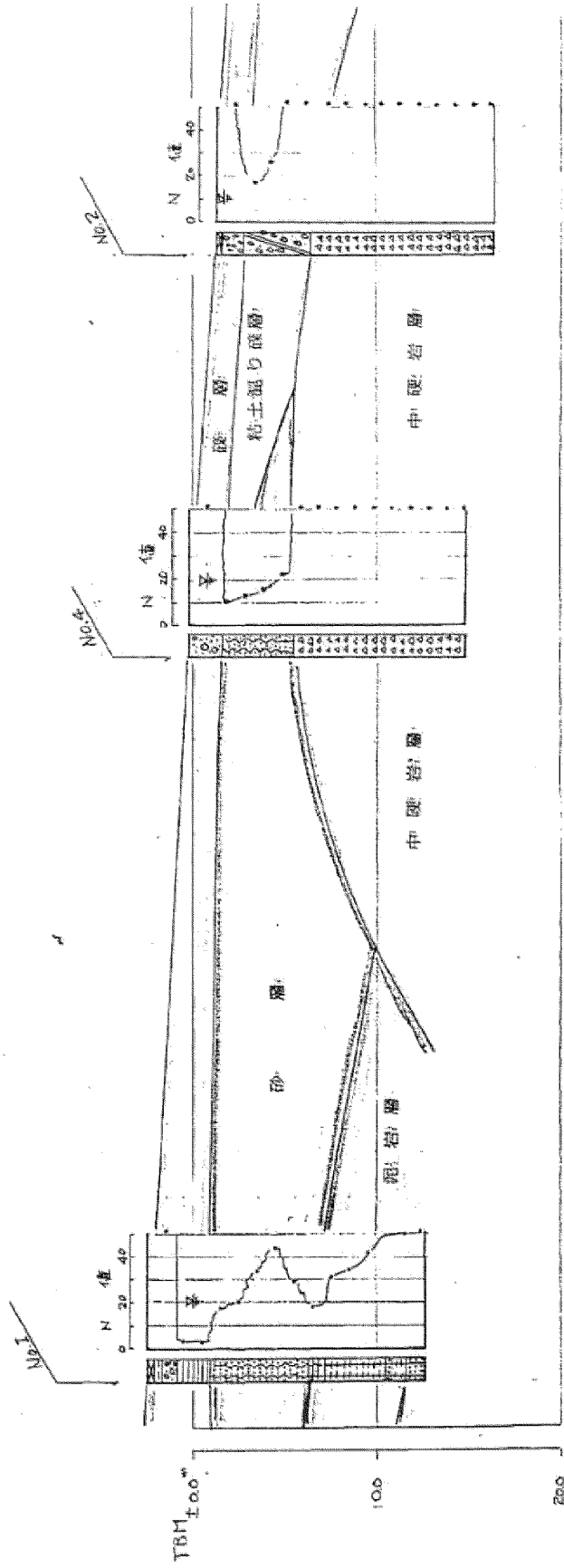
検査年月日	昭和 55 年 9 月 17 日 ~ 昭和 55 年 9 月 24 日
検査機関	財団法人北陸血清研究所
検査責任者	浦上光一
	本部 金沢市三馬2丁目251番地 分室 金沢市横山町17-15番地

# 推定断面図集

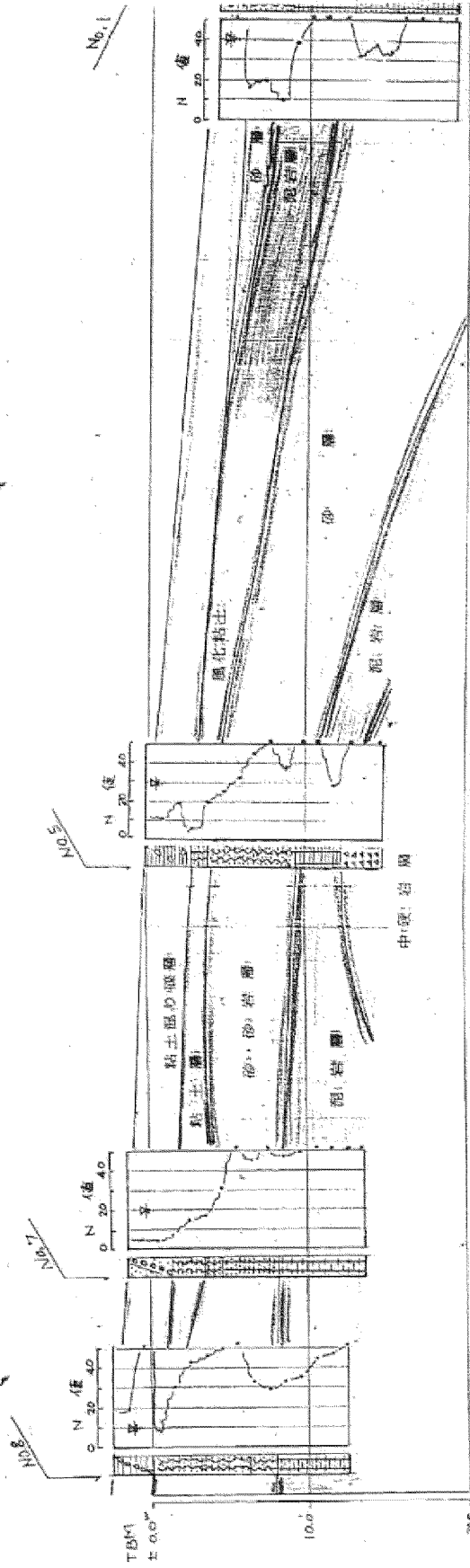




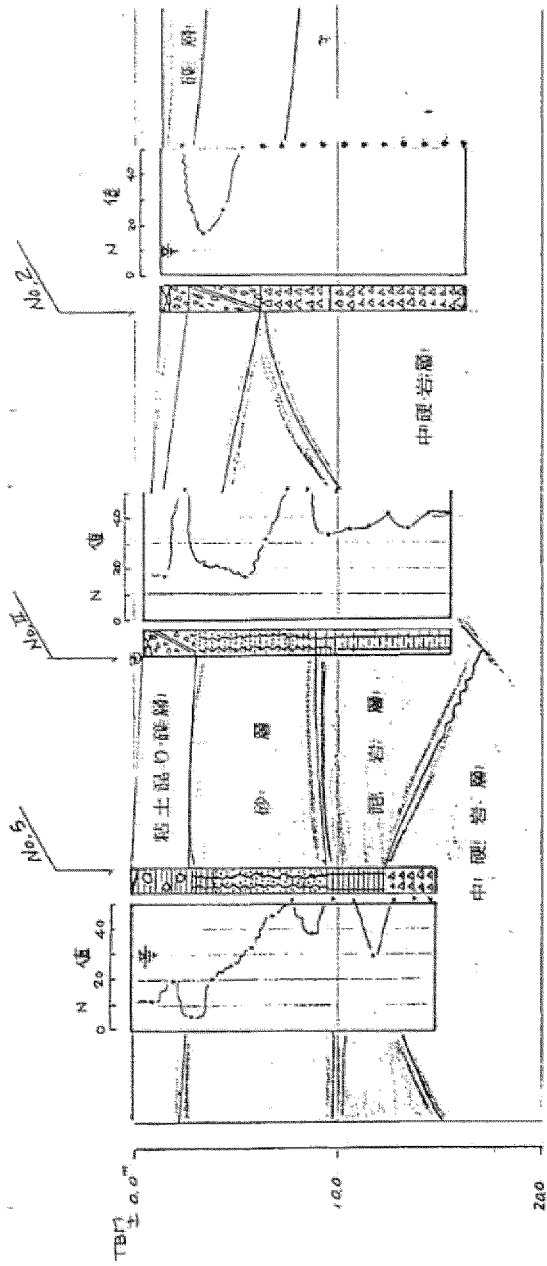
A~A 断面



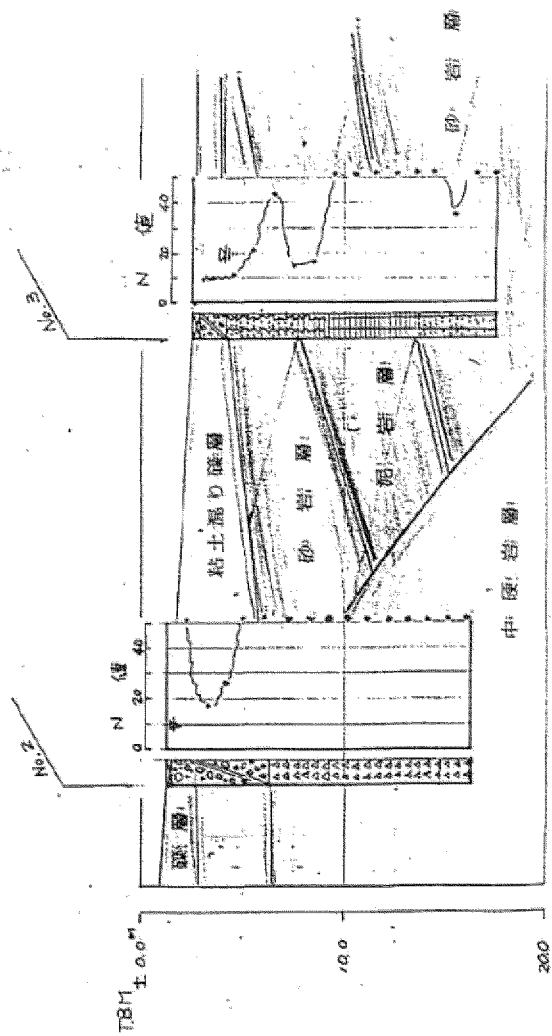
B~B 断面



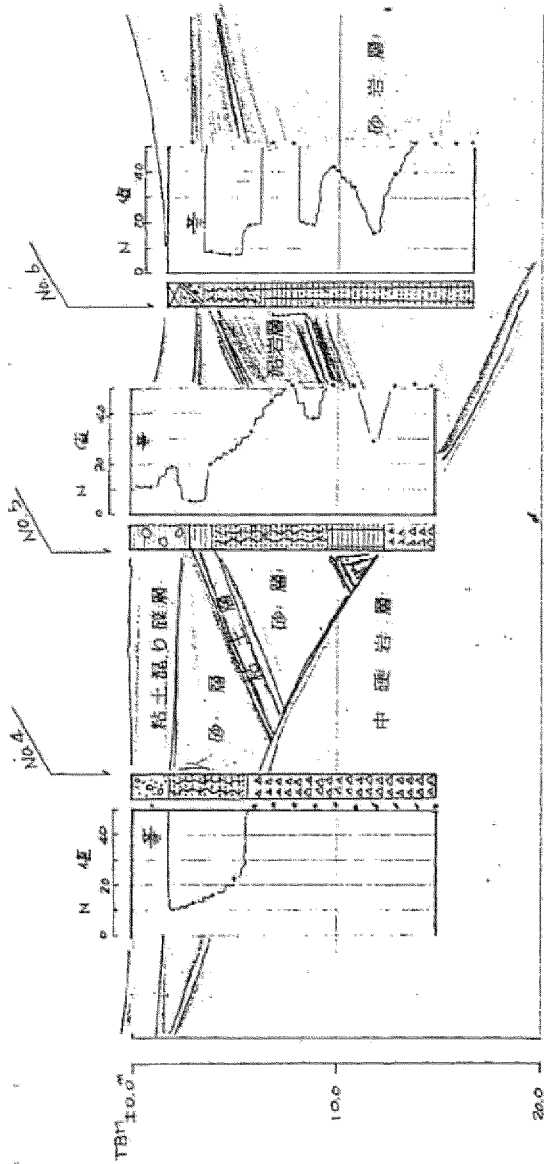
C~C 断面



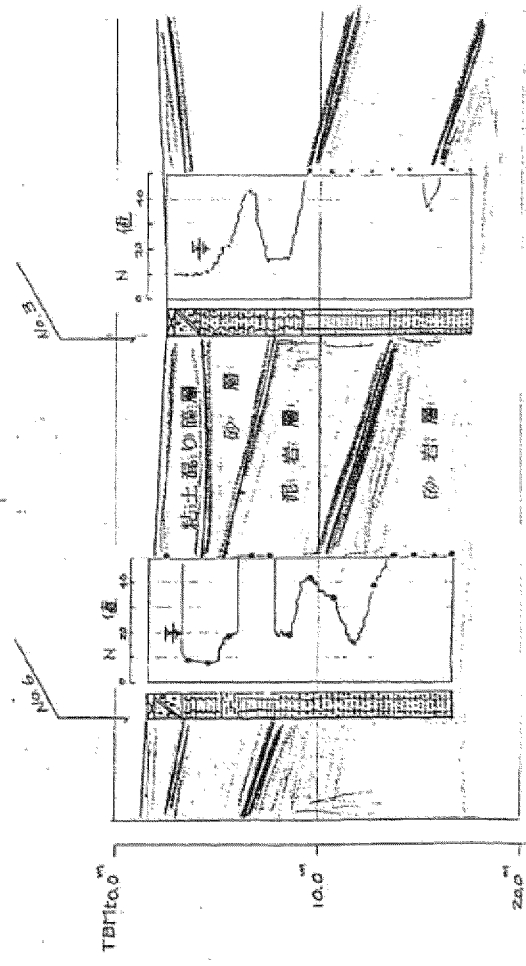
D~D 断面



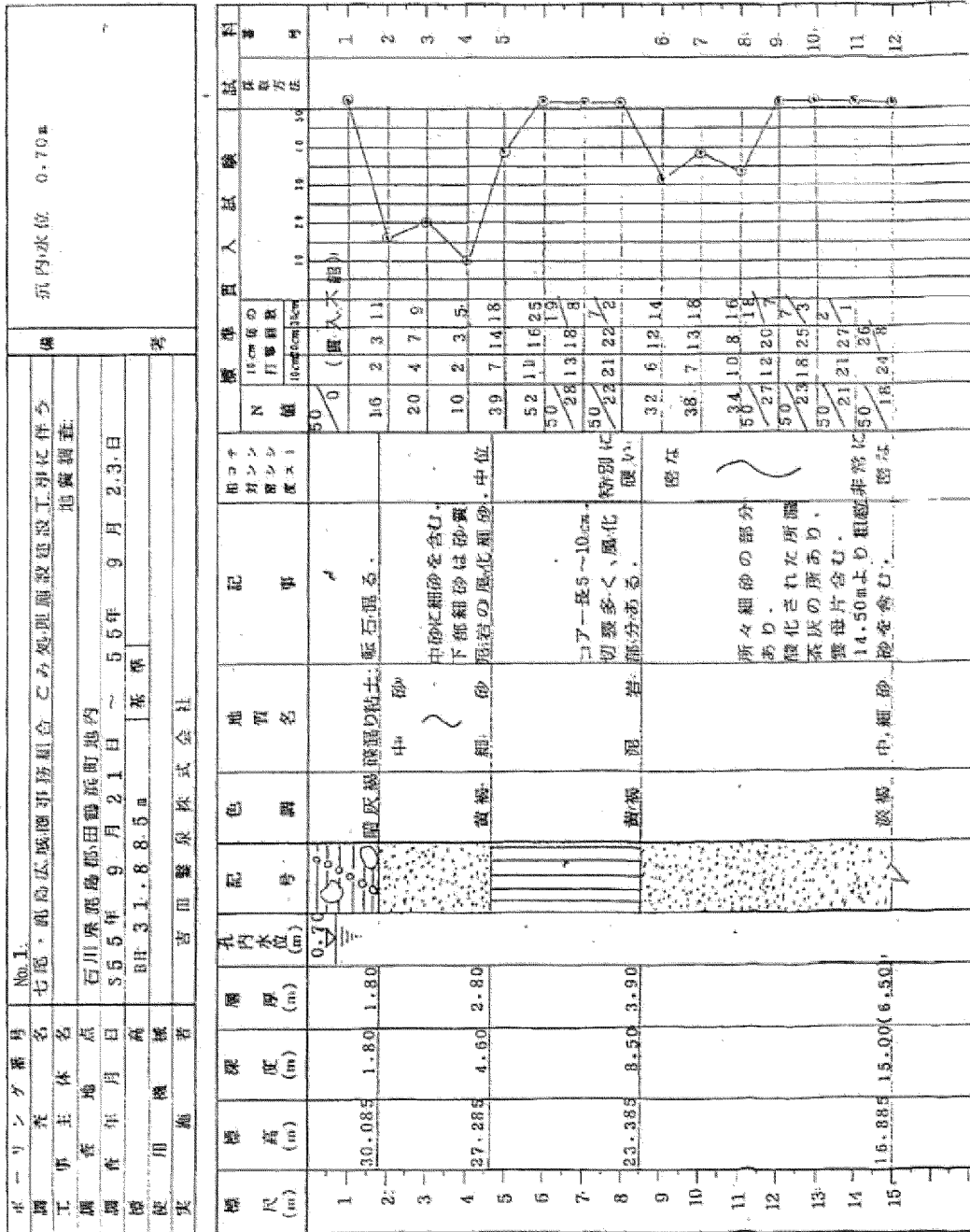
E-E 剖面



F-F 剖面

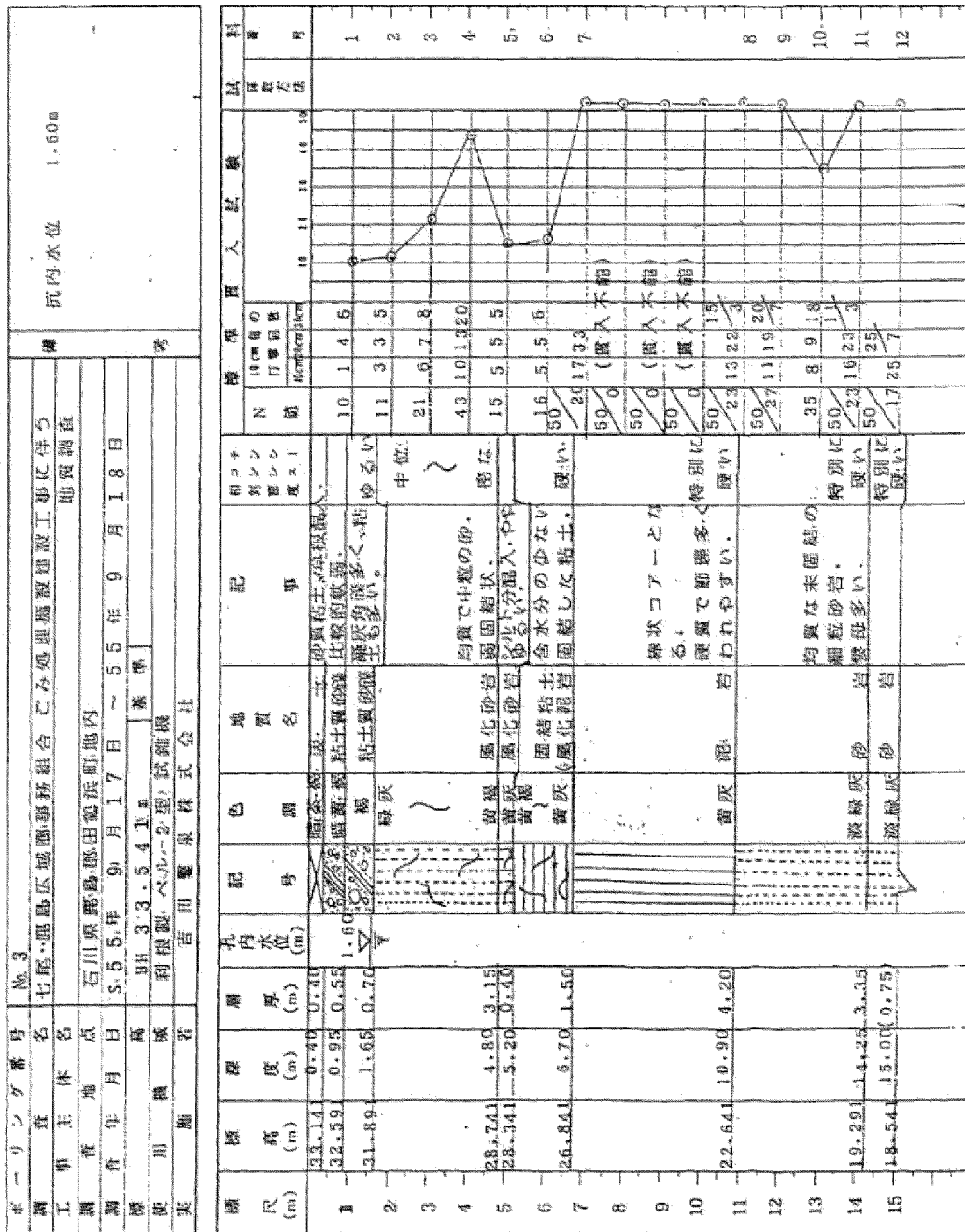


# ボーリング柱状図

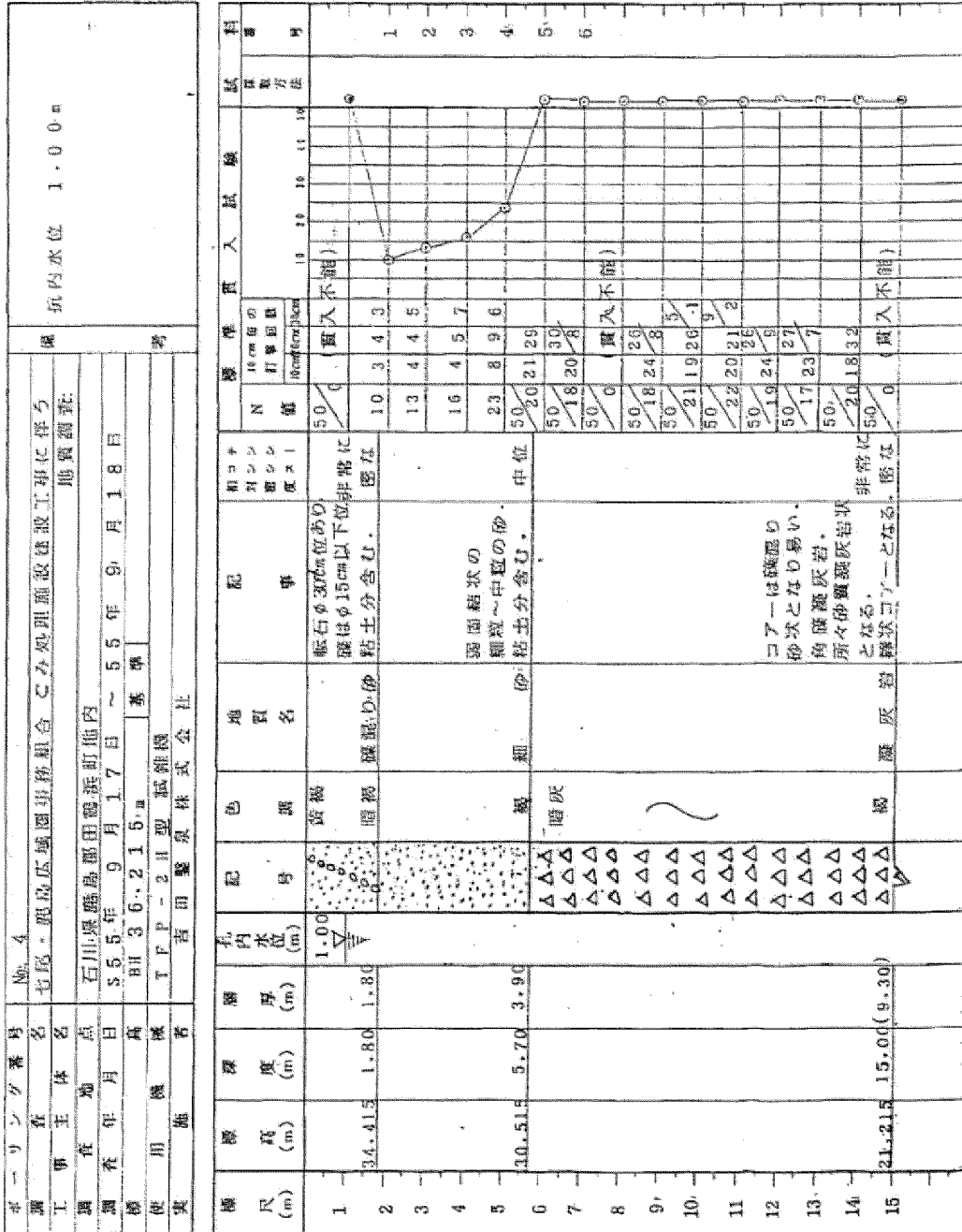




# ボーリング柱状図



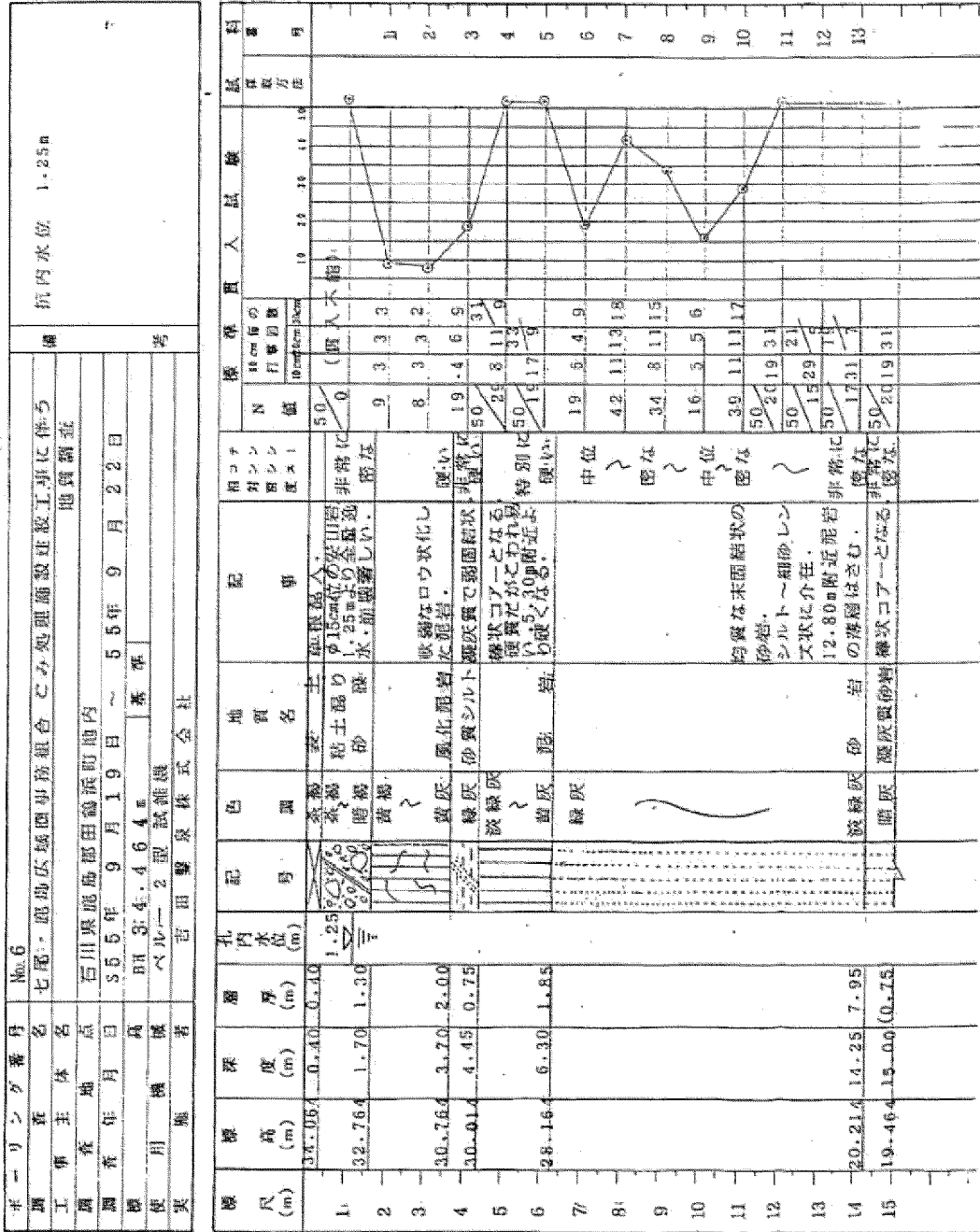
# ボーリング柱状図



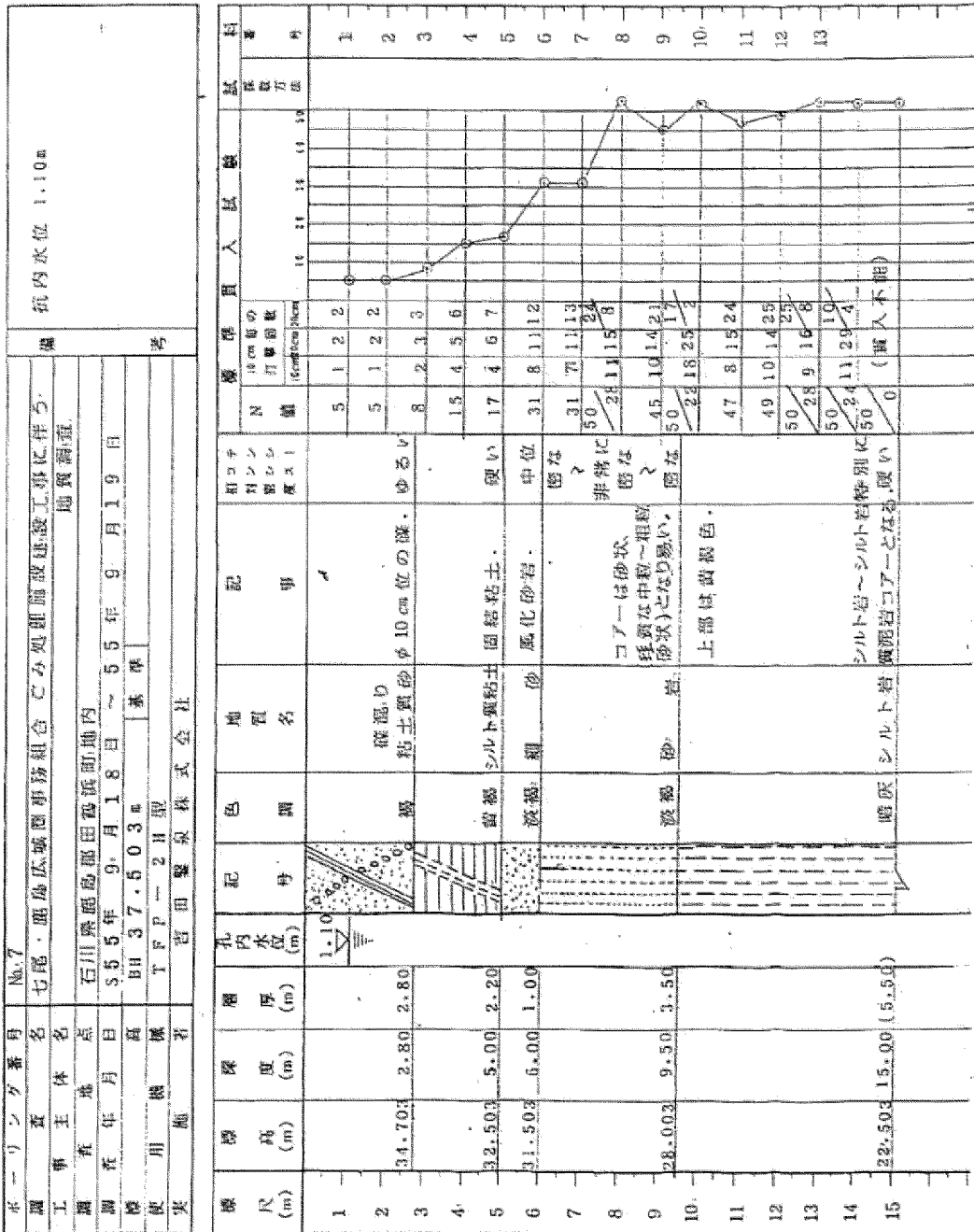




# ボーリング柱状図



# ボーリング柱状図



# ボーリング柱状図

ボーリング番号	No. 8	
調査主体名	七尾・野島広域圏事務組合 ごみ処理施設建設工事に伴う地質調査	
調査地点	石川縣鳳凰郡田鶴浜町地内	
調査年月日	5.5.5年	9月20日 ~ 5.5.5年 9月22日
調査高さ	BH: 3.8	5.3.8m 基準
使用機械	TFP-2H型 試錐機	
実施者	吉田鑿泉株式会社	

坑内水位 1.20m

